

教育学研究科・グローバル教育展開オフィス

岡村 亮佑・教育方法学・発達科学コース・博士後期課程3年

国際学会：World Association of Lesson Studies

参加地・期間：アスタナ（カザフスタン）・2024年9月23-27日

発表題目：Exploring the Diversity of Inquiry-Based Learning Practices in Japanese Secondary Schools: The Introduction of the "Period for Inquiry-Based Integrated Studies" Curriculum Area

成果の概要

私が参加したのは、世界授業研究学会（World Association of Lesson Studies：WALS）という、授業研究についての国際学会です。2024年9月24日から26日までカザフスタンの首都アスタナにおいて開催されました。前23日にはPh.D dayと称して、博士課程院生や若手研究者向けのセッションが、後27日にはSchool Visitと称して現地の学校で実際に授業研究を行うフィールドワークがなされました。なお、授業研究とは教師や研究者が実際に教室で行われる授業を観察し、それについての事前・事後検討会を行うことで授業・学校改善と教師の力量形成を達成しようとする営みのことです。私は23日から27日にかけての全てのプログラムに参加し、大変充実した国際学会経験となりました。

私の発表は、現在所属研究室で行っている中等教育における探究学習についての訪問調査に関するものでした。現在、コンテンツベースからコンピテンシーベースへのカリキュラム改革が国際的に進んでおり、従来の教科学習には留まらない探究学習の重要性に着目が集まっています。そこで私たちは、現代日本における探究学習の実践動向を調査し、その類型化を試みました。具体的な実践事例に基づく発表は、世界各国で探究学習に興味を持っている教育研究者や現場教師の方々にも好評をいただきました。約30-40名ほどのオーディエンスが集まり、二名の方に質問をいただいたほか、発表後にも事例の詳細や研究内容について複数の方々から個別に質問をいただきました。

また、本学会の前後に開催されたPh.D DayやSchool Visitに参加できたことも、私にとって非常に大きな学びとなりました。Ph.D Dayでは、博士後期課程院生が自らの研究内容をポスタープレゼン発表する機会が設けられており、同分野の最前線を担う研究者たちから質問を受けたり、他国の院生と交流する機会になったりと、非常にいい機会となりました。School Visitでは、実際に現地の学校を訪問できるということで、カザフスタンの小中一貫校に入らせてもらい、校内施設を見学したほか、英語の授業を観察し授業研究を行いました。カザフスタンではカザフ語、ロシア語、英語の三つの言語を学ぶ必要があるとのことで、そうした点に代表される日本との差異に驚くとともに、授業に関する困難や達成感には日本とも共通するものがあるなど感じました。また、他の国の方と授業研究を行う初めての経験となり、日本発祥の授業研究が海外にこれほどまでに浸透しているのかと驚きました。

本支援を通して国際学会に参加できたことに関して、次の二点が印象的でした。第一に、日本国内の学会と国際学会との差異を感じられた点です。本国際学会の主要言語は英語ですが、開催地が旧ソ連諸国のカザフスタンであることもあり、私たちの発表はカザフ語とロシア語の同時通訳を伴うものでした。また、学会自体が欧米に留まらない様々な国や地域からの参加があり、多言語・多文化的な状況はとても新鮮でした。また、コーヒーブレイクなどの時間が多く設けられていたり、学会専用Appで気になる研究者とすぐつながれたり、学会発表の他にも研究者同士が議論できる時間や環境が十分に整えられている点が印象的でした。

第二に、自らの研究を国際的に発信していくことの重要性を改めて感じられた点です。他の方々の研究発表を聞いていく中で、直面している事例や課題には少しずつ違いがありながら、研究者が現場教師は共通した問題意識から授業研究に取り組んでいることが感じられました。また、別の文脈から似通った問題に取り組んでいる方々の話を聞くことで、いつもとは異なった見方を学ぶことができ、非常に刺激的な経験ができました。

最後に、このような国際学会への参加経験を後押ししてくださったグローバル教育展開オフィスの皆様に改めて感謝申し上げます。